



さあ、答え合わせをしよう！

vol.45 奈良時代(ならじだい)③

※ココを見てね!▶調べてみよう~奈良時代(ならじだい)

1. 奈良時代(ならじだい)には、「官衙(かんが)」とよばれる制度(せいど)が生まれました。その中で、国(いまでいう都道府県)を管理(かんり)していたのは、次のうち どれですか？

正解:①国衙(こくが)

今の日本は47の都道府県(とどうふけん)に分けられていますが、奈良時代(ならじだい)は68の国に分けられていました。そして、国ごとに ①国衙(こくが)という役所(やくしょ)がおかれました。また、郡衙(ぐんが)は区役所や町役場のような存在(そんざい)でした。役所(やくしょ)は、土地や税(ぜい)の管理(かんり)をおこなうほか、律令(りつりょう)とよばれる法律(ほうりつ)のもと、国と民衆(みんしゅう)をつなぐ接点(せってん)という重要(じゅうよう)な役割(やくわり)を担(にな)っていました。県衙(けんが)というものは、ありません。

2. たくさんのお寺がつくられた奈良時代(ならじだい)、国ごとにおかれた寺のうち、女性のお坊さんがいる寺のことを、何といいますか？

正解:①国分尼寺(こくぶんにじ)

聖武天皇(しょうむてんのう)が国をおさめた頃は、はやり病(やまい)や地震(じしん)、各地でおこる反乱(はんらん)など、全国各地でいろいろな困難(こんなん)が起(お)こりました。そこで、仏教(ぶつぎょう)の力で国を救(すく)っていただこうと考え、全国各地に僧侶(そうりょ/お坊さん)のいる寺を建てました。男性の僧(そう)がいる寺を国分寺(こくぶんじ)、女性の僧(そう)がいる寺を国分尼寺(こくぶんにじ)とされ、大仏がつくられた奈良(なら)の東大寺(とうだいじ)は、総国分寺(そうこくぶんじ)として全国の頂点(ちやうてん)に位置(いち)づけられました。正解は、②国分尼寺(こくぶんにじ)。正式な名称(めいしょう)は、国分寺(こくぶんじ)が「金光明四天王護国之寺(こんこうみょうしてんのうごこくのてら)」、国分尼寺(こくぶんにじ)が「法華滅罪之寺(ほっけめつざいのてら)」といいます。国分三寺(こくぶんさんじ)という寺は、どこにもみつきりませんよ。

3. もっと知りたい奈良時代(ならじだい)の1番最後の話には「終わらない、平城京パズル」といタイトルがつけられています。それは、なぜでしょう？

正解:③「平城京(へいじょうきょう)」のことは、まだまだわからないことがあるから

平城京(へいじょうきょう)は74年間、いまの東京都(とうきょうと)のような首都(しゅと)でした。だから、ここを発掘(はくつ)すると、奈良時代(ならじだい)のモノがいろいろと出てきて、丁寧(ていねい)に調べることで、この時代のことがわかります。平城地区では、1965年8月から開始(かいし)した「平城宮跡第1次発掘調査」以来、合計1000次(回)を超(こ)える発掘調査(はくつちやうさ)がおこなわれています。大切な歴史遺産(れきしいさん)が崩(くず)れたり、壊(こわ)れたりしないよう慎重(しんちょう)に、少しずつ進められているため、発掘調査(はくつちやうさ)はまだまだ終わらないのです。正解は③です。こうした調査(ちやうさ)をもとに、現在、朱雀門(すざくもん)や大極殿(だいごくでん)、東院庭園(とういんていえん)などが復原(ふくげん)されていますが、掘(ほ)れば掘(ほ)るほど、新しい発見(はっけん)があります。何が出てくるか、楽しみだね♪